

令和5年秋季駐車場研修会（北海道、11月16日(木)、11月17日(金)）

## 参加レポート

株式会社富士ダイナミクス

パーキング営業統括部長兼ソリューション営業部部长

須藤 浩之

本年6月の福岡・大分に続き、この度は北海道へお邪魔して参りました。全国各地から多数のご参加があり、竹歳誠団長以下合計45名の他、札幌市内では札幌駐車協会から遠藤隆三会長をはじめ10名が加わってくださり大盛況の研修会となりました。

### □1日目(11月16日木曜日)

<行程>

北海道ボールパークFビレッジ(北広島市)視察→おたる別邸(意見交換会)

→ザ ロイヤルパーク キャンパス 札幌大通公園(宿泊)



秋晴れの下、新千歳空港からバスで移動し北海道ボールパーク F ビレッジの視察を行いました。北海道日本ハムファイターズの新球場ES CON FIELD HOKKAIDO(エスコンフィールドHOKKAIDO)を含めた約32ヘクタールという広大な敷地の中に、自然と共存する次世代ライブエンターテインメントや心身を育むウェルネスソリューション、文化交流が活発な街づくりを目指す、国内初ともいえるまったく新しいクリエイティブなコミュニティスペースが誕生したのです。

スタジアムツアーはエスコンフィールドのツアーガイド様に案内と説明をいただきました。美しくかつこよくデザインされた外観を仰ぎ見ながらスタジアム内に入ると、壮観な光景や開閉に30分近く要する大屋根に圧倒されました。スタジアム内にはファイターズの栄光と時代時代の歴史や施設全体のジオラマがわかりやすく展示され、通路の大壁面一杯に大谷選手とダルビッシュ選手の肖像画を配する等、同球団にしか表現できない貴重なレガシーを余すところなく伝えていきます。また、観客が居心地よく過ごすための多種多様なコモンスペースと店舗、観客席から見るフィールドの近さ、フィールドへの視界をできるだけ遮らないバックネット等、きめ細やかにつくり込まれていることに気づかされるとともに、北海道日本ハムファイターズがこの施設に込められた想いの強さと多大な労力に頭が下がりました。

続いて、三菱地所株式会社様が開設されたワーケーションオフィス(WORK×ationSite)を見学。タワー11と銘打ったゾーン内のホテル客室フロアに併設され、ナチュラルかつ明るい内装空間で野球観戦をしながらワークやミーティングもできる優雅なスペースです。果たしてここで仕事になるのか、いやいや、ここで過ごすエレガントさがいいのだ、といった参加者の会話で盛り上がりました。

そして、広大な敷地の10か所に配置された約4,000台の駐車場の見学です。展望位置に集まり運営管理をされている三菱地所パークス株式会社様の案内と説明を拝聴した後に質疑応答が交わされました。野球の試合日の利用は観戦チケット(Fチケ)のサイト購入と連動した予約制、試合のない日は一般向けの時間貸し、両方の運用を行うハイブリッド化された駐車場システムを導入しています。同システムは私が在籍する株式会社富士ダイナミクスが三菱地所パークス株式会社様の下で納入させていただきましたが、詳細な内容は別稿(2023年7月31日付 情報発信「アンテナ」(第16回)『HOKKAIDO BALLPARK F VILLAGE(北海道ボールパーク F ビレッジ)』)の紹介と駐車場運営における新システムについて。三菱地所パークス株式会社取締役常務執行役員 平石政人様)をご参照いただければ幸いです。

日が暮れる頃、宿泊ホテルの『ザ ロイヤルパーク キャンパス 札幌大通公園』に到着。同ホテルは札幌大通公園に聳え立つさっぽろテレビ塔のライトアップを眼前に臨む絶好のスポットに立地します。地産地消をベースに「北海道を体感する」をコンセプトとして2021年10月にオープンした上質を感じるホテルです。あまりに印象的であったのは客室内に設置されているウッドスピーカー(北海道産のトドマツを加工して製作)とレコードプレーヤー。フロントでレコードを借りて室内で好きな音楽を楽しめるようになっています。私事ですが次回の札幌出張はここに宿泊することにした次第です。

チェックインした後ロビーに集合し10分ほど歩きながら意見交換会の店へ。夕食はおたる別邸でいただきました。札幌駐車協会の遠藤隆三会長の挨拶をスタートに、北海道ならではの美味しいお食事と札幌駐車協会より差し入れていただいた大吟醸吉翔等の地酒を賞味しつつ各テーブルで活発な意見交換が行われました。

最後に、竹歳団長より中締めのご挨拶があり、散会後は大勢の方が夜のすすきのに繰り出されたことと思います。



札幌駐車協会 遠藤会長



竹歳副会長

## □2日目(11月17日金曜日)

### <行程>

ホテル出発→札幌都心部の開発状況視察(バス移動しながら十数か所の開発物件の見学)→北洋銀行セミナーホール(北洋銀行様および札幌市様の講演)→「サッポロビール園」(昼食)→厚真町・北海道胆振東部地震被災地ガイドツアー→新千歳空港(解散)

二日目は朝から雨模様となり肌寒さを感じる気候となりました。ホテルをあとにしてバスに乗りながら札幌都心部の開発状況と大規模開発14物件の視察です。

講師の三菱地所株式会社北海道支店ご担当者様より、札幌中心地周辺のエリア区分や駐車場マーケット、札幌都心の開発動向についての解説の後、札幌中心部(札幌駅近傍～中島公園近傍の間のゾーン)の大規模開発物件14か所全てについてひとつひとつ説明していただきながら見学することができました。講師の方は移動するバス内で立たれているにもかかわらず、澁むこともなく立て板に水が如く、わかりやすくお話される様に頭が下がりました。

次は、北洋銀行セミナーホールに移動し北洋銀行様および札幌市様の講演を拝聴しました。

北洋銀行様は札幌中心部で相次ぐ大規模開発に必要な資金調達などを通じて地域の発展を想いご尽力されていることを知る機会となりました。また、普段は外部に使用されることのないセミナーホールを本研修のために使用させていただきました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

続いて、札幌市まちづくり政策局政策企画部様より『札幌都心のまちづくり』、札幌市まちづくり政策局総合交通計画部様より『札幌市の都心部における交通まちづくり』についてお話をいただきました。2020年～2030年にかけて札幌都心リニューアルが加速し2028年まで開発のピークが続くことと合わせて、開発を支える仕組みの充実、企業誘致や民間開発の誘導・調整、象徴的空間の創出による街並み形成等の幅広い視野にわたり取組まれていること、脱炭素化等のエネルギー施策としては、都心において様々な技術を駆使した熱供給事業を展開されており、また、北海道胆振東部地震の際に北海道全域で発生したブラックアウトの教訓としてエネルギーセンターを備えたビルを核とする災害時対策利用に取り組まれていること等を学ぶことができました。



札幌市 まちづくり政策局  
政策企画部 都心まちづくり推進室  
都心まちづくり課長 岩田様



札幌市 まちづくり政策局  
総合交通計画部 交通計画課  
交通施策担当課長 佐藤様

国内大都市圏においても人口減が進む中、人口200万人を超えんとする札幌市の意気込みや勢いを感じながら、昼食会場のサッポロビール園に到着。ジンギスカン料理を囲みながら各テーブルとも和気あいの雰囲気の中、安易に肉を追加しすぎて完食に苦しんでいるテーブルもあったようです。



研修会の最後を飾るのは、一般社団法人厚真町観光協会のガイド様による北海道胆振東部地震被災地ガイドツアーです。2018年9月6日午前3時8分頃にマグニチュード6.7、最大震度7の大規模地震が発生、斜面崩壊による土砂災害で厚真町を中心に死者44名・重傷者51名、5千棟近い建物が全壊・半壊し、北海道内約295万世帯で大規模停電(ブラックアウト)する等大きな被害となりました。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、長い時間を要する被災された方の「暮らし」の立て直しと心の回復、被災地域のさらなる復興を願っております。



雨天のためバスから外に出て視察することは叶いませんでしたが、地震発生から5年を経た今も山の斜面が崩れた様子がかかなりの広い地域に残り、広範囲にわたる土砂崩れ防止工事が施されており、当時の被害の大きさを目の当たりにすることができました。

一般社団法人厚真町観光協会のガイドスタッフ様達は、本研修会でお話いただいたことも然り、今もこれからも、被災経験を通じて学んだ“災害への備え”、“思いやり”、“絆の大切さ”などを伝承する活動を行っていくとのことでした。

その後、新千歳空港までバスで移動の上解散し秋の研修会も無事終了となりました。ご参加の皆様お疲れ様でした。

最後に、有意義で楽しい本研修会の企画と準備にご尽力くださいました全日本駐車協会の企画委員および事務局、また、札幌関係の労をお取りくださいました遠藤隆三会長をはじめ札幌駐車協会の皆様にご心より御礼を申し上げ参加レポートの結びと致します。